特別講演２

「最近の便秘治療と内視鏡検査について
～大建中湯の臨床効果とともに～」

昭和伊南総合病院 消化器病センター長
堀内　朗　先生

当センターでは、胃癌、大腸癌撲滅のためには上下部消化管内視鏡検査の普及が必須と考え、朝食をとらずに来院すれば、予約なしに当日上下部消化管内視鏡検査を快適に受けられる検査法の確立に努めてきた。

その際、下部消化管内視鏡検査では異常を認めないものの、排便障害に苦しむ多くの患者に遭遇するようになった。

漢方製剤の大建中湯は、腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるものを承認の効能又は効果としており、同症状をきたすと言われている術後イレウス、過敏性腸症候群、排便異常などを中心に使用されている。

我々は、大腸刺激性下剤耐性患者では、大建中湯が排便回数には有意な影響は与えないものの、腸内ガス量を減少させて下部消化器症状を改善させる効果を認めるとともに、大腸刺激性下剤にて腹痛が生じる便秘症例には、少量の大建中湯の服用のみで腹部不快感、腹痛などの下部消化器症状を改善させつつ、排便回数を有意に増加させる効果を認めた。